

○介護サービス別の利用状況(表1)

サービス内容	給付費	対前年増減率(%)
<b>①住宅サービス</b>	38億725万1,575円	10.6
訪問介護	4億9,246万4,446円	2.3
訪問入浴介護	4,337万4,785円	6.8
訪問看護	2億105万9,616円	11.2
訪問リハビリテーション	2,330万8,936円	35.9
通所介護	12億214万9,629円	9.6
通所リハビリテーション	3億7,111万3,082円	6.3
福祉用具貸与	2億2,074万9,280円	10.7
短期入所生活介護	3億9,772万7,545円	12.0
短期入所療養介護(老健)	3,642万5,216円	28.9
居宅療養管理指導	4,342万1,843円	36.2
特定施設入居者生活介護	3億399万6,021円	34.1
特定福祉用具販売	1,254万2,779円	9.7
居宅介護住宅改修費	4,519万5,885円	5.4
居宅介護支支援	4億1,372万2,512円	8.9
<b>②地域密着型サービス</b>	4億289万8,612円	9.8
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	115万9,768円	54.7
認知症対応型通所介護	4,984万5,379円	14.2
小規模多機能型居宅介護	2,532万95円	85.2
認知症対応型共同生活介護	2億4,216万7,399円	10.1
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	8,440万5,971円	△5.2
<b>③施設サービス</b>	26億1,133万9,033円	△1.2
介護老人福祉施設	13億9,812万6,001円	2.6
介護老人保健施設	9億717万680円	6.5
介護療養型医療施設	3億604万2,352円	△28.7
<b>④その他</b>	4億5,848万3,239円	3.9
審査支払手数料	940万3,350円	△9.1
高額介護サービス等費	1億2,256万3,494円	2.5
高額医療合算介護サービス等費	1,958万4,345円	△0.9
特定入所者介護サービス等費	3億693万2,050円	5.1
<b>保険給付費①+②+③+④</b>	<b>72億7,997万2,459円</b>	<b>5.6</b>

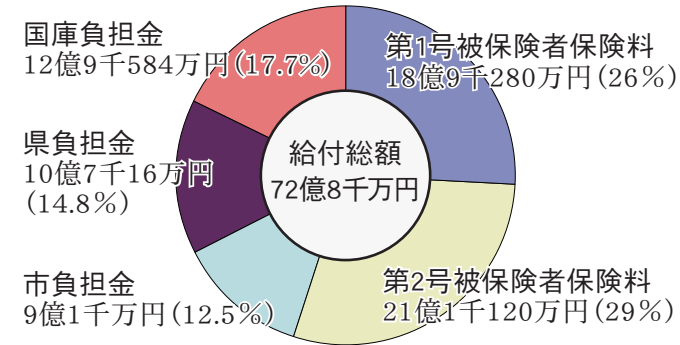
問合せ介護保険課へ内線1551

市長の主な動き

- 10/2…県市長会正副会長会議・役員会
- 10/6…入間基地への要望活動
- 10/7…県市長会定期総会並びに市長研修会
- 10/7・22…定例庁議
- 10/9・10…全国都市問題会議
- 10/16…白寿訪問
- 10/18…狭山市制施行60周年記念式典、ファミリー・ウェルカム・レセプション
- 10/19…さやま大茶会
- 10/20…県市長会要望活動
- 10/26…県レクリエーション大会inさやま総合開会式
- 10/31…県後期高齢者医療広域連合議会定例会

こうしたなかで、本市では、目的を明確にするコミュニケーション組織も誕生し、NPO法人を立ち上げて地域活動に参画しています。成熟社会になった今、市民一人ひとりが社会の一員として自覚を持ち、地縁やコミュニティ組織に参加することが肝要です。新たな仲間との出会いも生まれ、地域も自分も輝いていきます。地域や自分のために、始めの一步を踏み出してみませんか。

○介護保険給付費の財源内訳(グラフ)



○狭山市の高齢化率と要介護認定率(表2)

区分	年度	狭山市	全国平均	埼玉県平均
高齢化率	25年度	25.7%	25.7%	22.7%
	24年度	24.2%	24.3%	21.7%
要介護認定率	25年度	13.0%	17.8%	13.9%
	24年度	12.8%	17.6%	13.7%

要介護・要支援の認定を受けている方の割合(要介護認定率)です。今後、狭山市の高齢化率は、全国平均を上回ると見込まれる中で、本年1月から市内で新たに24時間対応の「定期巡回・随時対応型訪問介護事業所」もサービスを開始しています。

●要介護認定率が低い狭山市  
(表2)から、狭山市の高齢化率は全国平均と同様ですが、要介護認定率は、全国平均より低い埼玉県内の平均をさらに下回っていることがわかります。このことは、狭山市は、健康で自立した生活を送る

●増え続ける給付額と認定者  
介護保険の給付額、認定者数と

●自立した生活を続けるために  
心身ともに健康で、自立した生活は、毎日を幸せに送るための基本であり、介護保険制度の健全な運営にも大きく寄与します。市では、高齢者の自立した生活を維持するために、「元気アップ教室」や「いきいき倶楽部」などの介護予防教室を開催しているほか、市内5か所の「地域包括支援センター」では介護・介護予防相談をお受けしています。ぜひ、ご活用ください。

●平成25年度利用状況  
25年度の利用状況は、26年3月末現在で認定を受けている方が5千378人、給付総額は約72億8千万円でした。介護サービス別の給付額は(表1)のとおりです。保険給付費の財源は、40歳以上の方の保険料と国・県・市の公費で

●増え続ける給付額と認定者  
介護保険の給付額、認定者数と

●自立した生活を続けるために  
心身ともに健康で、自立した生活は、毎日を幸せに送るための基本であり、介護保険制度の健全な運営にも大きく寄与します。市では、高齢者の自立した生活を維持するために、「元気アップ教室」や「いきいき倶楽部」などの介護予防教室を開催しているほか、市内5か所の「地域包括支援センター」では介護・介護予防相談をお受けしています。ぜひ、ご活用ください。



平成25年度 介護保険の利用状況

介護保険制度は、介護が必要になった方が安心してサービスを利用できるように、社会全体で高齢者の介護を支える仕組みです。今月は、要介護認定者数や給付総額など、平成25年度の介護保険の利用状況と、狭山市の現状などをお知らせします。



●「狭山市駅西口地区スカイテラス」がグッドデザイン賞を受賞

今年5月の「都市景観大賞都市空間部門優秀賞」の受賞に続き、狭山市駅西口地区スカイテラスが、10月1日、2014年度グッドデザイン賞の「都市づくり、地域づくり、コミュニティ部門」で表彰されました。複雑な敷地や地形的な特徴が計画に折り込まれた点や、多岐に渡る関係者が計画に参加できる仕組みを作った点などが評価されて受賞となったものです。



問合せ都市計画課へ内線2220

●行政評価の第三者評価を実施

平成25年度に市が実施した事務事業の評価結果に対する、第三者評価を10月10日(金)に実施しました。これは、狭山市行政改革推進委員会によって選定された事業を対象に、事業の必要性・有効性・効率性・今後の方向性など、市が自ら評価した結果を市民の視点から公開の場で検証し、その妥当性を判断するものです。

本年度は、6事業を対象に実施し、いずれも「市の評価は妥当」と判断されましたが、今後望まれる改善点などの意見も出されました。市では、今後、下半期の事務事業の執行と次年度の予算編成において、第三者評価結果の活用を検討してまいります。※詳細は、ホームページでご覧いただけます。問合せ行革推進課へ内線7051



狭山市長 仲川幸成  
似顔絵・花倉正喜氏

市長随想

109

組織に加入してほしい

今年の全国都市問題会議は「都市と新たなコミュニティ」をテーマに市民活力を生かしたまちづくりが論じられました。昔から村の住人は「農家組合」「結い(共同作業)」、「講(無尽)」などの組織に全員が加入し、相互扶助を行っていました。私が幼いころは、人手の足りない農家の麦刈りや茶摘みなどを隣組全体で助け合っていたと記憶しています。そこは財や知恵、技能ある人が、それぞれの持ち場で力を発揮できる組織でした。しかし、戦後の経済成長により、農村型社会は衰退。多くの組織が消滅していきました。そして現在、相互扶助の象徴である自治会は加入率の減少を食い止めることが喫緊の課題となつています。